

令和3年矢巾町議会定例会12月会議

一般質問議員と質問事項一覧表

受付番号	質問議員	質問事項	答弁者
1	5番 村松 信一	1. 令和4年度予算編成の基本的な考え方について	町 長
		2. 第2期矢巾町子ども・子育て支援事業計画について	町長・教育長
2	10番 昆 秀一	1. 障がいをお持ちの方々等への支援	町長・教育長
		2. シティプロモーションと特産品の開発・ブランド化	町 長
		3. オーラルケア等の重要性	町長・教育長
3	9番 赤丸 秀雄	1. GIGAスクール等運用の現状と課題について	教 育 長
		2. 小学校学区見直しと新たな開発区域の将来を見据えたまちづくり	町長・教育長
		3. 地域防災の取組及び町内Wi-Fi導入の現状について	町 長
4	1番 藤原 信悦	1. 「人生会議」の取組みについて	町 長
		2. 産業振興について	町 長
		3. ICT教育の取組み状況について	教 育 長
5	3番 小笠原 佳子	1. 子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨再開について	町 長
		2. 子育て支援について	町長・教育長
		3. デジタル田園都市構想と本町の政策の方向性について	町 長
6	7番 高橋 安子	1. 矢幅駅舎の有効利活用について	町 長
		2. 放課後キッズクラブについて	教 育 長
		3. 男性の育児・介護休暇取得について	町 長
7	11番 藤原 梅昭	1. 「脱炭素・SDGsの実現」について	町長・教育長
		2. 「定住人口・交流人口・関係人口の創出」について	町 長
8	2番 吉田 喜博	1. 矢巾町国民保養センターの今後について	町 長
		2. 矢巾町における有害野生鳥獣被害対策について	町 長
		3. 食品ロスについて	教 育 長
9	15番 山崎 道夫	1. 旧矢巾中学校敷地利活用方針について	町長・教育長
		2. 農家の生産意欲向上に向けた支援策について	町 長
10	4番 谷上 知子	1. 上水道の維持と築川ダムの水利権の活用について	町 長
		2. 読書活動について	町長・教育長
		3. ゴミの減量と再資源化について	町 長
11	13番 川村 よし子	1. ごみ処理について	町 長
		2. 加齢性難聴者の補聴器購入に対する支援制度の創設について	町 長
12	14番 小川 文子	1. 新型コロナウイルス感染対策について	町長・教育長
		2. 小、中学校のトイレに生理用品の配置を	町長・教育長
		3. スクールバスの拡充について	教 育 長
		4. 中学生の制服について	教 育 長
		5. 住宅リフォーム制度について	町 長
計	12名 34件	【一般質問実施日】 令和3年12月8日(水)午前10時 ※受付No. 1～4 令和3年12月9日(木)午前10時 ※受付No. 5～8 令和3年12月10日(金)午前10時 ※受付No. 9～12	町 長 28件 教 育 長 16件

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>1</u>	令和3年11月22日	午前・ 午後 9時00分
議席番号 <u>5</u> 番	村松信一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 令和4年度予算編成の基本的な考え方について (答弁者) 町長</p> <p>① 今年度は「新たな日常の実現」「脱炭素・SDGsの実現」「デジタル化の推進」「定住人口・交流人口・関係人口の創出」の4点を重点施策として掲げ行政運営に取り組まれておりますが、この重点施策は今年度以降も必要不可欠な施策であり継続し取り組む必要があると考えるがどうか。</p> <p>② 令和4年度の歳入見込みについて、コロナ禍による個人住民税や国民健康保険税等各種町税の減収も考えられるが、歳入はどのような見通しとなりそうか。 また、第7次総合計画基本構想には、まちづくりを推進する上で必要となった場合、計画の見直しをすることがあると明記されているが、後期計画の後半2年間について計画の修正や事業内容等の変更、また公共施設等総合管理計画の長寿命化計画について修繕時期等の変更はあるか。</p> <p>③ ウィズコロナを念頭に、コロナ感染症に強い社会環境の整備、新たな暮らしのスタイル確立、新たな付加価値を生み出す消費・投資の促進という視点から取り組んでいる現在の事業のなかで、令和4年度も継続する事業、また縮小する事業の考えについて。</p> <p>④ 矢巾町気候非常事態宣言の具体的な取組である、二酸化炭素削減のための太陽光発電、バイオマス発電など新エネルギーの導入、クリーンエネルギー自動車の普及のため令和4年度に新たに取り組む計画はあるのか。</p>

	<p>⑤ デジタル化推進による町民サービスの向上に向け、今年度デジタル化、オンライン化に向けた取り組みを実施している事業は何か。またテレワークの普及による働き方改革として現在取り組んでいる事業のなかで、今後さらに強化し取り組むデジタル化推進事業は何か。</p> <p>⑥ コロナ感染症予防のため、今年度の各種事業が中止や延期または規模縮小されるなど、まちづくり指標となる多くの事業が制約をうけ本来の取組が出来ない状況下にあるが、計画に掲げている各項目の達成度を上げるため、今年の後半から令和4年度にどのように取り組む考えか。</p> <p>⑦ 「定住・交流・関係人口の創出」のために現在取り組んでいる空き家所有者の意向調査、建築物の用途精査の進捗状況はどうか。来年度に向けた展開はどのような取組を考えているか。</p> <p>⑧ 国は新たな成長推進枠として、令和4年度予算概算要求においてグリーン、デジタル、地方活性化、子供・子育てへの予算の重点化を進めるとしているが、本町では何を重視して予算編成を行う考えか。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 第2期 矢巾町子ども・子育て支援事業計画について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>① 子ども・子育て支援事業は2020年から24年までの5年間で事業計画期間とし、乳児家庭全戸訪問事業において各家庭に必要な支援を聞き取りしているが、どのような支援要望があるか。またどのように対応しているか。</p> <p>② 子育て援助活動支援事業の取組強化のため、令和2年度にファミリー・サポート・センターを設置したが、現在の利用状況はどうか。</p> <p>③ 子育て短期支援事業について、入所施設は確保されているのか、また、子どもの養育が困難な家庭への支援とあるが、利用内容と件数はどうか。</p>

- ④ 子育てを支援する生活環境の整備について「子ども・子ども連れの親が安全・安心に通行出来る道路交通環境の整備」について、道路拡幅や歩道の設置等には時間がかかることから、車輛の時間帯侵入禁止やグリーンベルトの設置などで対応が可能な箇所もあると思うがどのような検討をされているか。
- ⑤ 第2期矢巾町子ども・子育て支援事業計画の実行性を確保するために定期的に点検・評価を行うことが重要としているが初年度の点検・評価はどうであったか。
- ⑥ 子どもの生きる力の育成に向けた学校の教育環境の整備について、令和元年度に作成された幼保小の学びを繋ぐ接続カリキュラムに取り組んでいるが課題等はないか。
- ⑦ 障がいを持つ児童生徒の受け入れ体制について、施策の方向が示されているが、本町の小中学校における支援を要する児童生徒の状況や、「受け入れまで」と「受け入れてから」の対応はどのようになっているか。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>2</u>	令和3年11月22日	午前・ 午後 9 時00分
議席番号 <u>10</u> 番	昆 秀 一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 障がいをお持ちの方々等への支援 (答弁者) 町長、教育長</p> <p>障がいをお持ちの方々等は、健常者といわれるの方々以上に現在生活上の問題などを抱えて日常を暮らしていることが多い。</p> <p>障がいといっても、身体・知的・精神、それから難病もあるし、これらの障がいを重複してお持ちの方々もいる。</p> <p>障がいは、いつ誰がなるのか分からない。障がいをお持ちの方々等が暮らしやすい社会は、誰もが暮らしやすい社会につながっていく。しかし、多数の方々障がいをお持ちの方々等に対する先入観を知らず知らずのうちに持ち、知らず知らずのうちに差別していることもある。</p> <p>現在、地域共生や誰一人取り残さないなどといわれているが、現実はどうだろう。私はなぜかそれらの言葉が虚しく聞こえてしまう。</p> <p>そこで、今後障がいをお持ちの方々等に対する真の意味での支援をしていくことが必要であるとの考えから、以下について伺う。</p> <p>① 障がいをお持ちの方々等に対する知らず知らずのうちにしている差別をどう考えて、理解を深め、なくそうとしているのか。</p> <p>② 障がいをお持ちの方々等に対する真の意味での自立とは、どのようになることが理想と考えているのか。そのた</p>

	<p>めの支援をどう考え行っているのか。</p> <p>③ 障がいをお持ちの方々等に対する就業支援をどのように考え、行っているのか。</p> <p>④ 重度の障がいをお持ちの方々等に対する自立が難しい方々への支援をどう考え、行っているのか。</p> <p>⑤ 障がいをお持ちの子どもに対する自立のための支援をどう考え、行っているのか。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) シティプロモーションと特産品の開発・ブランド化</p> <p>(答弁者) 町 長</p> <p>シティプロモーションとは、地方自治体による地域活性化のためのすべての活動を意味する。具体的には、地方自治体による広報活動・営業活動などのことである。</p> <p>その広報・営業活動の武器となり得るのが、特産品ではなからうか。特産品については、その開発や普及を目的として委託等において毎年予算を取ってきている。だが、特に特産品に対し、毎年毎年これだけ予算をかけてきても、これといった矢巾町ならではのものが、残念ながら今までかけてきたこの予算に見合うだけの特産品が生まれていないというのが多くの方々の正直な感想のようだ。すなわち、これといった特産品などの有効な武器を持たずに全国の市場に打って出ても、その市場で勝ち抜くことは難しくなってくるのではなからうか。</p> <p>シティプロモーションは、地域のブランド化を通してイメージを向上し、移住・定住者などを増やすためのものでもあるが、このシティプロモーションや特産品の開発・ブランド化についても、今後担い手などの人材を含めどのようにして進めていくつもりなのか、以下伺う。</p> <p>① 今後のシティプロモーションのビジョンをどう持って、さらに進めていくつもりなのか。</p> <p>② 特産品の開発・ブランド化について、今後の考え方と進め方は。</p>

	<p>③ シティプロモーションや特産品開発・ブランド化について、子どもや若者の意見の反映をさらに進めるべきに思うが、いかがか。</p> <p>④ 産学官連携による本町の特産を生かした商品開発として、どのようなことを行っているのか。</p> <p>⑤ 今までの本町の農産物のブランド化として、販売ルートの確保・拡大をどう図っているのか</p> <p>⑥ 今まで本町の6次化による商品開発したものに何があるのか。そして、今後どのように進めるのか。</p> <p>⑦ シティプロモーションや特産品開発などを進めるための人材をどう養成・育成しているのか</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) オーラルケア等の重要性 (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>オーラルケアとは、虫歯や歯周病などを予防するために口の中を清掃し、清潔な状態を維持することである。</p> <p>口は全身の入り口であり、その健康は非常に重要である。口は飲食物の入り口でもあるが、ほかにも言語を発する器官でもある喉や舌などを含めて重要な器官でもある。</p> <p>口のトラブルの一つとしての歯周病は脳梗塞・心筋梗塞・誤嚥性肺炎の原因ともなるし、新型コロナウイルス感染症など多くの病気が口を入り口として感染している。しかし、口は全身の健康の入り口でもある。</p> <p>また、よく歯を磨く人の口腔内でも1,000～2,000億個もの菌が存在し、大便1gに含まれる菌の数は約100万個程度といわれており、便よりも口の中の方が圧倒的に菌が多いとされている。</p> <p>それらのことから、オーラルケアでの口腔機能・環境を整え維持することは、健康増進を図り、QOLの向上にもつながり、子どもから大人、高齢者まですべての世代の方にとって大変重要である。</p> <p>そこで、このオーラルケア等の重要性について、以下伺う。</p>

- ① 各世代に対する口の健康維持のための予防意識の向上にどのように取り組んでいるのか。
- ② 歯の健康については、特に日常のケア、歯科医院での定期検診などが重要になってくるが、これらをどのように町民に対して意識化して、実践しているのか。
- ③ 町民の歯周病の現状、歯周病が引き起こす疾病に対する考えと、その対策は。
- ④ 障害をお持ちの方々等や要介護者に対するオーラルケアの現状と、その対策は。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>3</u>	令和3年11月22日	午前・ 午後 9 時00分
議席番号 <u>9</u> 番	赤丸 秀雄	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) G I G Aスクール等運用の現状と課題について (答弁者) 教育長</p> <p>昨年3月に新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に、全国一斉に学校閉鎖が実施されました。それにより小中学校へのICT活用の授業が促進され、当町でも全児童生徒にタブレット型端末が貸与され情報化教育に導入・利用されています。</p> <p>今年9月下旬以降全国的にコロナ感染者数が減少傾向となり、対面による授業が主体となりましたが、ICT授業によるメリット・デメリットがクローズアップされてきました。</p> <p>特に負の部分の問題が深刻であるとメディアが伝えています。現代社会では、教育課程を終えても益々ICTを活用する社会環境となり、小中学生時に学ぶ情報教育は重要であります。そこで町内小中学校の運用状況や実態を共有したうえで、早期対応を考える必要性があることから以下について伺う。</p> <p>① 利用・活用状況について以下伺う。 学年ごとに週、月ごとの授業における活用時間はどれくらいあるのか。また、端末は容易に利用できるのか。利用は校内のみとしているのか。利用にあたって、パスワード設定は個人ごととなっているのか。利用時のネットワーク環境に問題はないか。</p>

	<p>② 運用スキルについて伺う。 教職員の研修実施とスキル向上の状況はどうなっているか。子どもの操作状況に問題はないか。教育委員会主導により実施された研修会について、その活用状況について検証はおこなったか。利用・活用による学校間格差が生じていないか。スキル向上目的にパソコンのプログラミングの部活動を創設する考えはないか。</p> <p>③ 運用問題・課題について伺う。 メール書き込みによる誹謗中傷はないか。その確認方法はどのように行っているのか。家庭の通信環境の把握とスマホ・ゲームの利用状況の把握を行っているか。 また不登校の原因となっていないか確認しているか。フィルタリング規制を解除してないか。自治体間格差の解消のため、他市町の運用状況の把握をおこなっているのか。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 小学校学区見直しと新たな開発区域の将来を見据えたまちづくり (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>現在、町教育委員会で通学区域審議会が開催されております。会合1回目の報告書、2回目の傍聴などを踏まえて私が強く感じたことを述べますと、今でも4小学校の児童数で学校間格差が生じていると思っておりますが、審議会委員の中には小規模校の良さもあると言われる方がいます。10数年後を想定した場合、今は1学級30人前後で構成されているので、その意見も尊重されると思います。30年先以上の将来を見据えた場合、少子化が益々進み全校で100人を割ることが想定できます。それから老朽化した校舎建て替えを踏まえて、現在の審議会にその辺の条件提示が必要と考えます。</p> <p>また令和4年には3エリアの宅地開発が確定しています。住宅地購入の最重要事項に教育環境を上げる方が多いことも周知の事実であります。開発と並行して宅地販売前に学区の再編、若しくは老朽化した校舎建て替え地等を明らかにすることが望ましいと考え、以下について伺う。</p>

	<p>① 今回開発計画の2エリア（田中、下花立地区）には、現在居住地が存在しないと思われるため、小学校区を通学距離の近い不動小学校と徳田小学校に割り振る考えはないか。</p> <p>また町長が喫緊の課題とする老朽化した校舎の建て替えを踏まえた学区編成を前提として、抜本的に見直す考えについて伺う。</p> <p>② 審議会の答申は、いつの時期を踏まえているか。その後はどのような過程を経て、学区見直しを確定するつもりであるか伺う。</p> <p>③ 開発計画地の販売は、学区が購入者意識の重要ポイントであると話しましたが、当町はそれをどう捉えているか伺う。</p> <p>④ 現在冬期間でありスクールバス運行を行っている。通学路の安全確保の観点から、歩道がない地区や2.5kmを超える地区、防犯灯が少なく暗いエリアからの通学者へのスクールバス運行を拡大する考えについて伺う。</p>
<p>質問3</p>	<p>（質問事項）地域防災の取組及び町内Wi-Fi導入の現状について</p> <p>（答弁者）町長</p> <p>先日、防災士資格取得研修を受講する機会がありました。その内容はとても勉強になり、一人でも多くの方々が講習会に参加する機会があれば、全国あらゆる所で発生している災害の犠牲者を、もっと減らすことが出来ると再認識しました。</p> <p>そこで町で取り組んでいる地域防災について、再確認と防災意識向上の観点から以下について伺う。</p> <p>① 各行政区には自主防災組織がありますが、地域全体での防災訓練の実施が十分とは言えない状況です。住民の防災意識向上のために、訓練を繰り返すことが重要と考えますので、町主導での巡回訓練実施の考えを伺う。</p>

- ② 消火器点検や消防規定に基づく設備点検経費等について町負担で充実する考えはないか伺う。
- ③ 避難所を設置した場合、家族ごとの仕切り壁等やペット同伴者のスペース確保の準備を計画したものとなっているか伺う。
- ④ 自治公民館を避難所とすることも想定して、ICT環境の整備や町内に格安利用できるWi-Fi環境を整備したが、現在の利用並びに準備状況はどうなっているか伺う。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>4</u>	令和3年11月22日	午前・ 午後 9時45分
議席番号 <u>1</u> 番	藤原信悦	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 「人生会議」の取組みについて (答弁者) 町長</p> <p>人生会議とは、厚生労働省がそれまでの「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を見直し、高齢多死社会の進行に伴う地域包括ケアシステムの構築に対応するものとして新たに策定した施策の愛称です。</p> <p>具体的には、人生最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や介護従事者を含めた医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合い、共有する取組みです。</p> <p>ポイントは、本人の意思が変わる都度、何度でも話し合うことです。また、この会議に年齢は関係ありません。命の危険は突然にやって来るからです。</p> <p>人生会議の普及、啓発にあたって、国は地方自治体の役割として啓発用リーフレットの配布と住民向けのセミナーの開催を定めています。しかし、具体的にどのような方法・内容でセミナーをするかについては示されていません。</p> <p>具体的な事例としては、紫波町の一般社団法人みんなの健康らぼが、カードを使ったゲーム方式で人生会議をすすめています。</p> <p>人生会議についての町の取組みを、以下伺います。</p>

	<p>① 人生会議の普及・啓発について、町はこれまでどのような取り組みをしてきたのか。</p> <p>② みんなの健康らぼのホームページには、ケアセンター南昌で介護職員を対象に、カードを使った人生会議の進め方の研修をしたとの掲載がありました。 いろいろな事例を参考に、住民向けのセミナーやコミュニティ活動での取り組みを進めてはどうか。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 産業振興について (答弁者) 町 長</p> <p>これまで産業振興について何度か質問し、産学官金と連携して進めるとの回答はいただきましたが、その後、具体的な施策は示されていないと思います。</p> <p>一方、長引くコロナ禍で企業の業績は低迷し、回復までにこれまで以上に多くの問題を解決していかなければならないと思います。</p> <p>資金力もその一つとは思いますが、それ以前に事業の再構築が間に合うのかということが問題と考えます。なぜなら、これまでのやり方では時間がかかりすぎ、回復以前に倒産に陥る可能性が高いと思われるからです。</p> <p>今までにない経営能力や発想が求められますが、具体的にどうすれば良いのか悩まれる事業主も多いと思います。</p> <p>一つの事例として、静岡県富士市に始まる「ビズモデル」があります。一線を離れた敏腕経営者を支援者とし、いろいろな助言・指導をいただきながら業績改善を図るというもので、新聞でも紹介されていました。近くでは、気仙沼市でも「気仙沼ビズ」として取り組んでいるようです。</p> <p>このモデルでの自治体の役割は、運営費の負担と支援者との契約です。事業主は、無料で1回60分の制限はあるが何度でも相談ができます。そして、結果を出せない支援者は翌年の契約は打ち切りになるそうです。それだけ、真剣でなけれ</p>

	<p>ば産業振興はできないのが現実ではないかと思えます。改めて、産業振興に対するお考えを伺います。</p> <p>① 産学官金での産業振興として、現在どのような取組みがなされているのか。具体的な成果は何かあるのか</p> <p>② 産業振興がなかなか進まない本当の原因は何であるのか。また、それを解決するための必要なことは何か。</p> <p>③ 今後、ビズモデルのような民間の知見を活用する考えはあるのか</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) ICT教育の取組み状況について (答弁者) 教育長</p> <p>国のGIGAスクール構想に基づき、昨年度、児童生徒一人に1台のタブレットとネットワーク環境を学校に整備し、ICT教育に向けた環境整備はできました。 今年度から具体的な取組みを進められているわけですが、以下について伺います。</p> <p>① ICT教育で町が目指す目標は何ですか。</p> <p>② デジタルドリルやデジタル教科書を使う授業は、教科によって差があるのか。</p> <p>③ デジタルデバイスと紙ベースの授業で、児童生徒の理解度に違いはあるのか。</p> <p>④ 紙ベースと違いタブレットの操作が未習熟で授業が遅れるといった問題は発生していないか。</p>

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>5</u>	令和3年11月22日	午前 ・午後 1時15分
議席番号 <u>3</u> 番	小笠原 佳子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨再開について (答弁者) 町長</p> <p>子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス (HPV) の感染を防ぐHPV ワクチンは、2013年に定期接種になり、小学6年生から高校1年生相当の女子は接種を希望すれば無料で接種が可能となっています。</p> <p>一方で2013年6月より国は接種後に体の痛みなどを訴える声が相次ぎ、積極的勧奨を差し控えるとしたため、多くの自治体が対象者への通知をやめてしまい、7割近くあった接種率が1%未満にまで激減しておりました。</p> <p>本年10月1日に開催された厚生労働省の専門部会ではHPV ワクチンの安全性や効果などを検討し、「勧奨を妨げる要素はない」と結論付け、積極的勧奨の再開を了承しました。このことから、以下伺います。</p> <p>① 積極的勧奨が再開され本町での情報提供の方法についてどのような周知を予定しているか。周知対象、周知方法について伺います。</p> <p>② キャッチアップ制度が導入された場合の本町での情報提供の方法についてどのような周知を予定しているか。周知対象、周知方法について伺います。</p>

質問 2

(質問事項) 子育て支援について

(答 弁 者) 町長、教育長

子育ての中で抱えている悩みは、個々の置かれた立場で様々です。少子化や核家族化、また地域における人のつながりが希薄化する中で、頑張るお母さんをフォローする仕組みを構築する必要性を強く感じたところです。子育て支援施策について、以下伺います。

① 産後ケア事業は、厚生労働省のガイドラインでは、出産後1年以内の母親及び乳児に対し、心身のケアや育児のサポートなど、産後も安心して子育てができる支援体制を確保する取組として実施するものです。実施類型としては、短期入所の宿泊型、通所のデイサービス型、居宅訪問のアウトリーチ型があり、市町村に実施の努力義務が規定されております。当町での状況について伺います。

② 民間企業の手本となるよう、まずは矢巾町の男性職員が育児休業を取得しやすい職場環境づくりを進める必要があると考えます。当町の男性職員の育児休業の取得目標について、伺います。

あわせて、当町の女性職員の育児休業の取得率の現状と、育児休業取得時のキャリアロス対策の現状についても伺います。

③ 祖父母手帳の発行について、近年共働き世帯が増加し、特に30代、40代では5割以上を占めています。子育て世代にとって、身近で頼りになるのが祖父母です。しかし、育児の方法や考え方が時代とともに変化する中、孫を預かる祖父、祖母も戸惑う場面も多くあると聞きます。子育て情報を共有し、育児の世代間ギャップを埋めることで良好な関係が築かれるものと思います。その有効なツールとして、祖父母手帳を提案させていただきます。孫育てを応援する祖父母手帳の発行について、伺います。

④ 特定妊婦について3月14日付の岩手日報に、厚生労働省の調査によると、特定妊婦の件数が、制度が始まった平成

21年から現在までの10年間で、7倍の7,233人に増加したと報道されておりました。特定妊婦とは、児童福祉法において、出産後の養育について、出産前に支援を行うことが特に必要と認められる妊婦と定義されております。近年、虐待などで生まれたばかりの新生児が死亡するケースが相次ぎ、それまでは行政介入の対象外とされていた妊婦への支援が改正児童福祉法に定められました。リスクを抱えている妊婦を把握するために、産婦人科医との連携など把握についての当町の現状と、養育支援訪問事業との連携はどのような体制になっているのか。また、課題と今後の取組について伺います。

- ⑤ 多胎の妊娠や出産は、単胎の妊娠に比べ、普通の生活でも個人差はありますが、妊娠高血圧症候群や早産が起こるリスクが高いため、かなり負担が大きいと考えます。多胎妊産婦の支援の取組と課題について伺います。

質問3

(質問事項) デジタル田園都市構想と本町の政策の方向性について

(答弁者) 町長

デジタル田園都市構想と本町の政策の方向性について岸田政権は、去る11月11日にデジタル田園都市国家構想実現会議を開催しました。デジタル田園都市国家構想は、地域の暮らしや社会、教育や研究開発、産業や経済をデジタル基盤の力で変革していくもので今後の持続可能な環境・社会・経済を実現していくためのビジョンであり、そのアプローチが例示されていますが、矢巾町としてそうした内容に取り組む考えがあるか伺います。

- ① スマートヘルスケア先行型として、スマートヘルス、スマート農業、生体認証などを積極的に組み合わせ、高齢者が働きながら安心して暮らせるまちづくりが例示されています。岩手医大があり医療と防災の町としての評価が高い矢巾町は、スマートヘルスに取り組む予定があるのか。

また、基幹産業である農業についてスマート農業について取り組む予定はあるのか伺います。

② 防災・レジリエンス先行型として、多様化する災害時の対応に最適なサービスやデータ連携基盤の設計から、緊急時に強い生活サービスの改善・再設計を目指すことが例示されていますが、今後、防災対策のデジタル化をどのように進めていく考えか伺います。

③ 地域経済循環モデル型としてサステナビリティの観点から生活サービスの再編を目指すもあり、蓄電池を活用した新たなエネルギー需給管理やサーキュラーエコノミーを意識した新事業モデルの創出が例示されていますが、脱炭素に向けた取組として蓄電池の活用を視野に入れるなど矢巾町新エネルギービジョンを現状に合わせて改定し取組をする必要があると思うがその考えはあるか。

また、サーキュラーエコノミーは矢巾町が強く推進しているリサイクルの延長にあり、環境と経済を考えた場合に推進していく必要があると思うが産学官で協力体制を構築して進めていく考えはあるか。また、研究開発、産業や経済をデジタル基盤の力で変革していくもので今後の持続可能な環境・社会・経済を実現していくためのビジョンであり、そのアプローチが例示されていますが、矢巾町としてそうした内容に取り組む考えがあるか伺います。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 6	令和3年11月22日	午前 ・午後 2 時00分
議席番号 7 番	高橋安子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 矢幅駅舎の有効利活用について (答弁者) 町長</p> <p>令和元年9月に岩手医科大学附属病院が本町に移転してから2年が経過した。</p> <p>矢幅駅は、岩手医科大学や岩手県立産業技術短期大学校・岩手県立不來方高校の通学に加えて病院が移転したことから交流人口が増加し、令和元年は一日平均3,145人の利用がありJR東日本盛岡支社管内駅別乗車人員で第8位だった。令和2年には新型コロナウイルスの影響で乗降者の移動が減少し2,830人だったにもかかわらず管内で第5位となった。</p> <p>今後コロナが収束した場合、病院への通院だけでなく、お見舞いの方が訪れるとともに春の入学・卒業シーズンには保護者など多くの方が電車で来町されることが予想される。しかし、本町の玄関である矢幅駅に降り立った際、案内所やコンビニ、休憩所も無く駅で迷う方も多いのではないかと危惧される。</p> <p>実際、駅周辺の住民は岩手医科大学附属病院までの道を聞かれることが多く、特に高齢の方は帰りの電車時間まで近いところで休憩したいが、駅の中に休憩場所があるか聞かれることが多いとの声がある。</p> <p>町外からの来町者が多い矢幅駅東口に現在イベントがあるときのみ使用している多目的ホールを利活用するべきではとの考えから以下伺う。</p>

	<p>① 矢幅駅東口多目的ホールの今後の活用についての計画はあるか。</p> <p>② ホールに案内所や土産品の販売、軽食喫茶等を計画する考えはないか。</p> <p>③ モニター等を設置し、本町の観光やイベント、「音楽のまち」にふさわしい日本一の合唱などの魅力をPRする考えはないか。</p> <p>④ 駅にレンタル自転車等を整備し、観光にも活用する考えはないか。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 放課後キッズクラブについて (答弁者) 教育長</p> <p>煙山キッズクラブを矢巾町社会福祉協議会に、矢巾東キッズクラブを特定非営利活動法人矢巾ゆりかごに委託し、働く親への支援として留守家庭児童に放課後の生活と遊びの場を提供することを目的に、学童保育に加えて各小学校の教室を利用した「放課後キッズクラブ」を平成30年度から開始した。</p> <p>キッズクラブが開始してから3年余りが経過したが、利用状況及び問題点について以下伺う。</p> <p>① 「煙山キッズクラブ」及び「矢巾東キッズクラブ」の利用児童数はどのくらいか。</p> <p>② 利用時間は、19時までとのことだが、その時間まで利用する児童はどのくらいか。</p> <p>③ 職員はそれぞれ何人で対応しているのか。</p> <p>④ 県内では、利用料金の徴収や最終時間に間に合わない場合、追加料金を請求するところもあると聞くが、本町では今後その考えはあるか。</p> <p>⑤ 「煙山キッズクラブ」が使用している教室は、煙山小学校校舎西側のプレハブで、手洗いの水道やトイレが無く不便だとの声がある。コロナ等の感染症がまん延する中、早急に整備が必要と思うが計画はあるのか。</p>

質問3

(質問事項) 男性の育児・介護休暇取得について
(答弁者) 町長

企業が男性社員に育児・介護休暇を働きかけることを義務付けた改正育児・介護休暇法が令和4年4月1日から施行される。

令和2年度における男性の育児休暇取得率は、全国で12.65%と初めて10%を越えたものの依然として低い状況にある。

フィンランドやスウェーデンなどでは、男性の育児休暇率は70%を超しているとのこと。

6年前一般質問した際、全国平均では5.14%の取得率、本町ではゼロという答えであり、今後周知を図り取得しやすい環境を作っていくとの答弁であったがその後の状況はどうなっているのか。

また、本町にも男性育児休暇を後押しする「くるみん認定企業」等も少しずつ増えてきたことから以下伺う。

- ① 町職員の男性育児・介護休暇の取得実績はあるか。
- ② 男性育児休暇取得への雇用環境整備について具体的に何か実施したのか。
- ③ 本町にある企業で、男性の育児休暇取得状況を把握しているか。また、くるみんの認定を受けている企業についてはどうか。
- ④ 今後、町職員や町内企業等への指導をどのように考えているか。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>7</u>	令和3年11月24日	午前・ 午後 9 時00分
議席番号 <u>11</u> 番	藤原梅昭	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 「脱炭素・SDGsの実現」について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標です。</p> <p>2015年の国連サミットにおいてすべての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ (実施計画)」の中で取り上げられました。2030年を達成年限とし、17の目標と169のターゲットから構成されています。</p> <p>本年、イギリス北部で開かれた、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議 (COP26) にて温暖化対策の強化や途上国への資金援助を表明しました。ただし、地球温暖化対策に後ろ向きの国に贈る「化石賞」に再度日本が選ばれました。</p> <p>理由は、二酸化炭素 (CO2) の排出が多い石炭火力発電の廃止の道筋を示さなかった為です。</p> <p>日本の若者達もイギリス・グラスゴーまで行って「温暖化対策をごまかさないで」と、岸田首相に直接抗議活動を行っている。</p> <p>① SDGs目標の気候変動として「矢巾町気候非常事態宣言」に対する具体的な取組・進捗状況並びに、町全体の新エネルギー比率及び取組状況を伺う。</p> <p>② SDGsに対する県内企業の理解度は70%を越し、推進に</p>

	<p>前向きな企業は約4割となり昨年からはほぼ倍増したが、規模別では大企業が47%だが、小規模企業は26.1%にとどまり規模が小さくなるほど取組や理解が乏しい。</p> <p>官民一体で、取り組む価値や事例を効果的に発信していくことが肝要であるが、当町の取組状況を伺う。</p> <p>③ 不動小学校に於いて「地球温暖化と海洋問題を考える」講演をオンラインで聴講したそうだが、町内小中学校でのSDGsに対する取組状況を伺う。</p>
<p>質問2</p>	<p>(質問事項) 「定住人口・交流人口・関係人口の創出」について</p> <p>(答弁者) 町長</p> <p>① 定住人口創出策として積極的な空き家対策に取り組むと有るが推進状況を伺う。</p> <p>また、定住を進めるには、雇用の場を確保することが大前提と考えるが、企業誘致への取組状況を伺う。</p> <p>② 交流人口創出策として、西部地区城内山の整備と活用に取り組むとしているが、周辺を含めた推進状況を伺う。</p> <p>③ 関係人口の創出策として、ふるさと納税を通じた魅力、文化スポーツ、観光面の推進状況を伺う。</p>

一 般 質 問 通 告 書

矢巾町議会議長 藤 原 由 巳 殿

受付 No. 8	令和3年11月24日	午前・ 午後 9 時10分
議席番号 2 番	吉 田 喜 博	

番 号	質 問 要 旨
質問 1	<p>(質問事項) 矢巾町国民保養センターの今後について (答弁者) 町 長</p> <p>昭和44年10月に落成した矢巾町国民保養センターは、現在矢巾観光開発株式会社が町の指定を受けて指定管理者として管理運営を行っております。これまで施設の整備を行ってきたものの経年劣化による施設を維持していくうえで補修に係る経費は年々膨らんでいる状況のほか、民間の温泉入浴、宿泊施設の閉鎖や廃業により矢巾温泉郷エリア内では当保養センターのみの営業となっております。</p> <p>町では、矢巾町国民保養センターをはじめ、矢巾温泉郷の活性化を図り、かつ観光振興を推進するにあたり、矢巾温泉郷活性化検討委員会を設置され、今後最終提案が示される流れになると思われませんが、特に矢巾町国民保養センターは公営保養施設として今後の運営をしていくためにも施設や環境面の整備をはじめ様々な課題の解決が必要と考えることから、以下について所見を伺います。</p> <p>① 令和2年度決算で国民保養センター運営事業費の指定管理料は補正予算で増額となりましたが、今年度の見込みについて伺います。</p> <p>② 矢巾観光開発株式会社の取締役員会で経営方針が決定され、施設が管理運営をされていると思いますが、委託者である矢巾町がその運営等に対してどのような内容の指導をしているか伺います。</p>

	<p>③ 矢巾温泉郷活性化検討委員会からの最終提案を待って、国民保養センターの今後の方向を検討されると思いますが、提案として矢巾温泉郷の環境整備には時間と経費が掛かること、国民保養センターは施設の維持管理に多額の経費が見込まれ観光振興による経済効果に結びつかないように思うことから、民間の介護施設として活用させ、周辺を医療福祉エリアにすることについて所見を伺います。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 矢巾町における有害野生鳥獣被害対策について (答弁者) 町 長</p> <p>野生鳥獣による農作物被害は深刻化しています。鳥獣被害が増加する背景としては、農山村部の過疎化や高齢化の進行による耕作放棄地が増加したことなどにより、生活環境の変化したことが考えられます。先月は、町内の煙山地区において子熊が目撃され町職員が対応したことが報道されました。館前地区では熊による人的被害が発生しております。一方で有害鳥獣の駆除を行う矢巾町猟友会の会員の減少や高齢化も問題となっています。有害鳥獣による被害を防止するため、以下について伺います。</p> <p>① 有害獣類の駆除については、罠や猟銃で対応することになりますがこれらは免許制度となっており講習等により免許を取得する必要があります。また、免許の維持更新には費用が掛かることから、狩猟を始めるために必要な費用の助成ができないか伺います。</p> <p>② 有害鳥獣を駆除した場合、解体する施設や処分地の確保が必要と思われますがどう対応しているか伺います。</p> <p>③ 猟友会の訓練を矢巾町総合射撃場で行っており、近隣市町からの申し込みが多数あるということです。しかしながら射撃場内には飲料水、水洗式トイレがなくこれでは狩猟者の技術向上や捕獲技術向上の研修会に支障をきたすと思われます。このインフラ対策を早急に着工できないかを伺います。</p>

質問 3

(質問事項) 食品ロスについて

(答 弁 者) 教育長

食べられる状態なのに捨てられる「食品ロス」は、家庭、スーパー、ホテル、レストラン等で見受けられ今年4月に環境省と農林水産省が最新の食品廃棄物及び食品ロスの発生量の推計値を公表いたしました。平成30年度の食品ロスは年間600万トンになっており、3年連続の減少となるが、減少傾向といえるかは、今後の推移を注視する必要があるとしています。

また、東京オリンピック期間中、約13万食、1億1600万円分が食品ロスで廃棄されたことがマスコミ報道されたことは記憶に新しく、発注量の管理に国民から批判が向けられたところでもあります。

このことから、本町の学校、保育園の給食に係る食品ロス削減に向けての状況と取組等、以下について所見を伺います。

- ① 町立小中学校、保育園の給食の残菜状況及びその要因について伺います。
- ② 町立小中学校の食育・環境教育を通して食品ロス削減のための啓発や指導をしているか伺います。
- ③ 食品ロスは需要と供給のバランスが崩れることが原因と考えられますが残菜の量により給食費に影響が出ないものか伺います。
- ④ 来年度から調理部門の民間委託を実施されますが、食品ロス削減に向けた対応または対策について、委託項目に盛り込まれるのか伺います。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 9	令和3年11月24日	午前・ 午後 9時20分
議席番号15番	山崎道夫	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 旧矢巾中学校敷地利活用方針について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>町民の関心が高い旧矢巾中学校の敷地の利活用策について、3月29日に町の「基本方針(案)」が示されたが、民間に売却し売却益を基金に積み立てるとした基本方針(案)の目的と具体的な内容の確認などについて6月と9月会議の2度にわたり一般質問を行った。</p> <p>答弁を聞いて感じたのは庁内検討委員会で基本方針を決めるにあたって、高橋町長が諮問していた「旧矢巾中学校敷地利用基本方針検討委員会」から出された答申を十分に尊重した上で検討し、「売却するのが最善の策」という方針(案)を決定したのか、率直に疑問を感じたことから以下について伺う。</p> <p>① 旧矢巾中学校敷地利用基本方針検討委員会が、平成28年3月23日から約1年間、7回にわたり委員会で検討し、出された基本方針では「当該地は、役場、公民館、体育館、田園ホール、岩手中央農協などに隣接する立地条件に恵まれ、多岐にわたる可能性を持ち合わせた公共空間であるとともに、旧矢巾中学校で学び、部活動をともにした卒業生や父兄にとっては、思い出深いシンボルでもあることから、次世代に継ぐ夢のある町有地として存続することが望ましい」としている。また、町民の思いや矢巾町の現状を分析し、将来を見据えた上で時間をかけて検討し、出され</p>

た大変重みのある答申となっている。

したがって、旧矢巾中学校敷地の利活用策を検討するにあたって、この答申を最大限尊重すべきであるはずの庁内検討委員会は、報告書を見る限り、答申について一言も触れておらず、「利活用を先送りすることは、需要の低下や地価が下落していくことが想定されるため、何か（特にも民間開発等）を行うためには今しかない」として売却するのが最善の策であると2回目の委員会で決定している。

つまり答申を尊重しその上に立って、十分に時間をかけて検討するのが庁内検討委員会であるべきと思うが、目的に沿った結論を短時間で導き出すために開催した委員会になっていたのではないのかと、勘繰ってしまうような内容になっている。答申について誰も全く気にも留めず、一言も触れることが無かったのか伺う。

② 「ナイター設備を有するかっこうグラウンドは、多くの町民に親しまれ利用されていることから、当面は、スポーツ振興やレクリエーションを通じた健康づくりの場として存続して下さい」としており、立地条件が良く年間を通して約5,000人以上もの町民が利用している使い勝手の良いかっこうグラウンドは、答申を尊重し引き続き活用すべきと思うが見解を伺う。

③ 庁内検討委員会において、教育施設と社会教育施設について大規模改修や建替えが必要になると想定し、民間に売却し基金に積み立てるのが最善の策であると決定したとしているが、方針（案）決定の主たる理由とした、教育施設と社会教育施設の大規模改修や建替えを想定している施設とは具体的にどの施設なのか。さらには運動公園などの新たな施設について全く検討されなかったのか。また、大規模改修や建替え等について、何年頃を想定し、改修費や建替え費用などについて、どの程度必要と試算したのか明かにされたい。

貴重な町有財産を売却する方針（案）であることから、あらゆる観点から検討した上に立っての決定だと思われるが、今後、議会として、さまざまな観点から検討する際の参考資料としたいので具体的に示されたい。

	<p>④ 基金積み立ての目標額を質すのは3回目になるが、目標額が定まらなければ売却面積も決まらないのではないのか。約3.3haのうち、一部は空地として残すとしているが、具体的に何処を残し何処を売却する予定なのか。いまだに売却予定の面積も売却額も示そうとしない理由は何なのか。</p> <p>⑤ 議会としての意見をお願いするとしているが、教育施設については小学校の統合再編が喫緊の課題であるとしているものの、計画立案の具体化にはまだまだ時間を要する状況にあり、まして社会教育施設については整備目標も構想も計画も曖昧な物でしかなく、議会における検討材料や判断材料が極めて乏しい状況にあることから、9月会議でも提言した通り、売却を前提とした方針（案）に対して議会の意見を拙速に求めるのではなく、町としての重要案件について、特にも現在、学校通学区域審議会に諮問している小学校の統合再編や町民総合体育館の建替え、さらには防災空間として活用できる総合運動公園の建設や多くの町民が集い憩える都市公園の建設、火葬場の移転等、多くの課題を町民目線で検討し、優先順位をつけて計画を組み立て、6月会議での町長答弁にある通り、第8次総合計画や都市計画マスタープランに反映し、その計画の実現に向けて議会を通じて真摯に議論を交わすことが今やるべきことではないかと考えるが、見解を伺う。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 農家の生産意欲向上に向けた支援策について (答 弁 者) 町 長</p> <p>全農県本部が示した2021年産米のJA概算金は、1等米60kg当たり主力品種のひとめぼれが前年比2,300円減の1万円、2年連続の引き下げとなった。また、県オリジナル品種の銀河のしずくは2,300円減の1万500円となり、あきたこまちは2,600円減の9,500円で6年ぶりに1万円割りとなった。</p> <p>県内7農協はJA概算金を踏まえ、販売経費などを考慮し</p>

て生産者に支払う「生産者概算金」を決めることになるが、岩手中央農協を確認したところ、ひとめぼれは9,400円に決定したとのことである。

こうした中、11月7日に公表された21年産米の検査結果によると岩手県産の1等米比率が全国平均を14.4ポイント上回る97.0%で東北では1位、全国では長野県について2位となり、喜ばしい結果となったが、10月における主食米の相対取引価格は平均で前年比13%安となり、岩手県産のひとめぼれは昨年同月比で14.2%減の12,807円と2年連続の下落となった。

米価の下落は農家の経営を直撃し、さらには石油製品を原料とする生産資材や、肥料、農薬、飼料などの相次ぐ値上げにより、生産コストが増える一方で、このままでは耕作意欲が減退し離農者が増えるのではないかと危惧することから以下伺う。

- ① 米価の大幅下落による本町農業における減収はどの程度になると試算しているのか。
- ② 県内の各自治体における農業者への支援がそれぞれ独自に行われているが、耕作意欲を減退させないためにも、減収緩和策として主食用米生産農家に対し、例えば、出荷米の検査料と入庫料の補助や肥料、農薬の購入補助などの支援を行い生産意欲の下支えを実施すべきと思うがどうか。
- ③ 10年間の農政の指針となる新たな「食料・農業・農村基本計画」が令和2年4月からスタートした。この基本計画は担い手について中小・家族農家など多様な経営の営農継続を重視して「経営規模の大小、条件に関わらず、農業経営を底上げする」とし、具体的には日本の農業生産の約4割を占める中小・零細農家の支援を強化すべきとしている。しかし矢巾町の現状はそうした支援がほとんど見えない状況になっていると言わざるを得ない。

今後、家族農家や兼業農家、定年退職後の小規模農家などに対して、使い勝手の良い支援策を検討し、経営規模にあった農業施設整備や機械導入などへの補助金制度等の

支援策を創設するべきと考えるが検討されたい。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 10	令和3年11月24日	午前・午後 9 時30分
議席番号 4 番	谷上知子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 上水道の維持と築川ダムの水利権の活用について (答弁者) 町長</p> <p>宅地開発により上下水道の使用量は増加することが予測されます。水は人間活動とすべての生きとし生けるものの根源であります。水に対する施策が発展に係る例は歴史的事実からも数多く上げられます。治水対策・農業用水対策が行われ人々の暮らしを豊かにし「水を制する者は国を制す」ともいわれてきました。岩手県内の水対策も灌漑・治水・飲料として、困難を乗り越え施行されており、現在も変わりなく稼働しております。身近にある農業用水路鹿妻穴堰や矢巾町の上下水道事業には今でも恩恵を受けています。特に今夏は、水の重要性を思わずには過せませんでした。コロナウイルス感染症への日常の対策として、うがいと手洗いが有効であり、熱中症対策としての飲料水も同様です。入浴・洗濯・清掃と水道水で清潔な暮らしを営み感染を防ぎました。住みたい街に挙げられる矢巾町。生命の存続の源になる上水道事業について伺います。</p> <p>① 町の水道はおいしいと感じますが、工夫している点について伺います。</p> <p>② 水質検査を東部西部浄水場で毎日行っていますが、どのような検査内容なのか伺います。</p> <p>③ 宅地開発が見込まれていますが、上水道の供給水量は不</p>

	<p>足しないか伺います。</p> <p>④ 地下水をくみ上げていますが、水源が枯れることはないか伺います。</p> <p>⑤ 築川ダムの水利権使用の期間と水量の限定はあるか伺います。</p> <p>⑥ 築川ダムの水利権を使わざるを得ない場合は、どのような事態か。また、産業に活用する予定はないか伺います。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 読書活動について (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>言語を話すことで癒され、いたわりあえる生活が送れます。私たちの生活は文字から切り離されることはなく、世界有数の教育環境の日本人のリテラシー（識字率）は道徳観や倫理観を共有しやすく、例えば感染症対策も共通の生活習慣がすぐ理解し合える文化があるからとも言われます。コロナ感染の中で孤立しがちな生活が続きました。読書で満たされ不安と孤独が解消できます。手に取れば楽しめる読書の広がりについて伺います。</p> <p>① やはぱ一くの図書センターの本の貸し出し数は近距離の地区が多い傾向にあります。遠距離の地区への読書へのサービス対策について伺います。</p> <p>② 読書ボランティアグループが活躍しています。ボランティアの技能向上・意欲向上の研修状況について伺います。</p> <p>③ 小学校の長期休業中の学校図書室を隣接する児童館に開放してはどうか伺います。</p> <p>④ 生涯学習の活動として高齢者への読書を普及させる考えについて伺います。</p>

質問3

(質問事項) ゴミの減量と再資源化について

(答弁者) 町長

ゴミの減量と再資源化はゴミを出す前の正しい分別によると思います。減量化と資源化について伺います。

- ① 地区の資源回収コンクール参加地区数について伺います。
- ② 燃えるゴミは減っているか伺います。
- ③ 家電の不法投棄の取り扱いについて伺います。
- ④ 資源ゴミの収集によりゴミ収集にかかる費用が増加していないか伺います。
- ⑤ ゴミの分別や指定日の周知啓発の現状について伺います。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. 11	令和3年11月24日	午前・ 午後 10時45分
議席番号13番	川村よし子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) ごみ処理について (答弁者) 町長</p> <p>気候危機打開へ、世界ではすでに多くの国が動いている。2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルを宣言しましたが、具体策が示されない状況です。ごみ処理は広域化ではなく3Rと拡大生産者責任、自治区内処理を基本に行うことが求められていると考えるので以下4点伺います。</p> <p>① ごみ処理施設広域化計画の広域化推進協議会では、意見として「分散処理がよいと思っているが、県の方針が変わらない。これ以上伸ばせない。」「6施設から1施設にすることは基本構想で決まっている。これまで数か所の施設を視察してきているが、不都合や支障があったとは聞いていない。」などの意見が出され協議を重ねたものと考えますが、盛岡市前潟地区が候補地として決定された要因は何か。</p> <p>② ごみ減量化については、矢巾町での県内初のリサイクルモア設置や8市町を巻き込んでの紙おむつ処理先進地の対策についての講演等を開催し積極的姿勢を示している。今後、広域8市町の人口減が予測される中で、溶融炉式ごみ焼却施設の建設と維持にかかる費用を考えると住民負担が増加するのではないかと伺う。</p> <p>③ 数年前から産業廃棄物の搬入が行われているところが</p>

	<p>あるが、町では把握しているか。</p> <p>④ 町内の福祉施設が購入した土地において、以前産業廃棄物を埋めていたことがわかり福祉利用できない私有地があるが町は把握しているか。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 加齢性難聴者の補聴器購入に対する支援制度の創設について (答弁者) 町 長</p> <p>年をとると耳が遠くなり、不便を感じるが多くなる。聴力の低下はうつ病や認知症になる危険因子の一つに挙げられている。しかし、補聴器をつけるなどして聴力の低下に正しく対処し、さらに家族や友人とのコミュニケーションを楽しんでいれば、うつ病や認知症の予防効果と発症を遅らせる可能性が高いといわれている。以下2点伺う。</p> <p>① 以前同僚議員から質問があった補聴器購入に対する公的支援制度を創設することについて、どのように検討されているか。</p> <p>② 加齢難聴者の補聴器購入に対する公的支援制度を創設するよう国に要望してはどうか。</p>

一般質問通告書

矢巾町議会議長 藤原由巳 殿

受付 No. <u>12</u>	令和3年11月24日	午前・ 午後 11時23分
議席番号 <u>14番</u>	小川文子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 新型コロナウイルス感染対策について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>現在は新型コロナウイルスの感染が落ち着いているが、これまでの経験を踏まえ予防対策と経済対策に更なる効果的な対策を進める必要があると考えることから伺う。</p> <p>① 3回目のワクチン接種計画の概要を伺う。高齢者は予約することが大変という声もあり、接種券の郵送とともに日程を指定した方法はどうか。</p> <p>② 保育園ではおもちゃ・本等の消毒のために殺菌灯の入った消毒箱を利用しているという事例を聞いたことから、本町の保育園、小学校、中学校に配置してはどうか。</p> <p>③ 今後の感染予防対策としてワクチン接種とともに検査体制の充実が指摘されている。本町で抗原検査キットを整備したが、活用状況はどうか。また、定期的なスクリーニング検査が感染源を早期に把握する上で重要と言われていることから実施してはどうか。また、今後は希望する町民に無料提供できないか。</p> <p>④ 経済への影響も大きいことから、町独自の事業者支援が必要と考えるが、年末を乗り切るための全業種を対象とした支援を早急に実施すべきと考えるがどうか。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 小、中学校のトイレに生理用品の配置を (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>生理の貧困が社会問題となっている中、ジェンダー平等を進める上からも生理用品をトイレに配置する自治体の取り組みが広がっている。本町も町民からサニタリー用品を募集するなど取り組んでいることから伺う。</p> <p>① 募集等の進捗状況はどうか。 ② 小中学校のトイレに生理用品を配置しているか。 ③ 婦人団体に依頼して広報・回収していただく取り組みを進めてはどうか</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) スクールバスの拡充について (答 弁 者) 教育長</p> <p>冬期間のスクールバスの運行は小学生の父母から歓迎されている。中学生の父母からも以前から要望が強かったことから拡充をしてはどうか。中学1年生については、昨年の実績を把握していることから、中学1年生を対象として今年度の冬季から実施可能か。</p>
<p>質問 4</p>	<p>(質問事項) 中学生の制服について (答 弁 者) 教育長</p> <p>今年、矢巾中学校の女子からの要望により制服にスラックスを認めたという報告を受けたが、その後の状況を伺う。また、ジェンダー平等の観点と冬期間の健康上の観点を考慮すれば、矢巾中学校だけでなく矢巾北中学校にも同様の措置をとる必要があるのではないかと考える。先日、東京都の中学</p>

	<p>校の取り組みで、制服メーカーがスラックス等多様なデザインを発表しているとの報道があった。本町でも来年の入学者に向けメーカーと連携してスラックスの選択も出来るように各学校と相談の上進めてはどうか。</p>
<p>質問5</p>	<p>(質問事項) 住宅リフォーム制度について (答弁者) 町長</p> <p>住宅リフォーム制度について以前の質問では空き家の活用を進める際に検討するということがあった。今後、人口増や危険個所の解消のために空き家対策の取り組みを強化する必要があると考えることから住宅リフォーム制度の導入について伺う。</p>